風土会　　会報（４月）No.５

♪　♪　♪　♪　♪　♪　♪　♪　　文責　　柴田　悦子

第５回学習会を，平成 20 年４月 25 日（金）19：00 ～ 20:00 教育センターにて行いましたので報告いたします。

第五回目の内容
講師　重枝一郎先生（千代中学校教諭）
　１　授業とエンカウンターの融合
　２　実践ビデオ紹介
　３　エクササイズの体験活動

１　授業とエンカウンターの融合

教科指導→自分で自分を動機づける能力を育てる
　　行動の模倣や試行錯誤する能力を育てる
　　（SGE のグループ体験を通して効率的に身につけさせる）
　　※ SGE ＝エンカウンター

☆人間関係を育て，グループを育てる指導がかなりの部分で授業とオーバーラップしている。
つまり，小集団での協力を体験するエクササイズや共同作業を体験するエクササイズは，表現力の育成や感情表出の訓練ともなり，授業を活性化することにつながるのである。
〈教育の基盤は人間関係にある〉
　※授業者と生徒の人間関係

☆私たち教師と生徒との関係について
・私の伝えたいことが生徒に理解されているという手応えをもてるような話し方
・生徒の伝えたいことが，私にきっちり伝わっている実感を生徒がもてるような聴き方
→授業にもかぶさってくる

「流れ星授業」：教師の話を聴いていない・教師の一方通行→深刻
　　教師と生徒の関係性にかかわることが多い

「扇形授業」：教師の発問がＡに受け入れられ，次はＢ・・・Ｃ・・・というように，教師を窓口にして授業が展開→あまりよくない
「他に意見はないですか」は一種の排斥語
せめて「つづいて，どうぞ」つなぎ語に

教師という窓口を介さずに，生徒間で仮に３人意見がつづけば「デルタ型授業」
５人つづけば「星形授業」
それ以上「ダイヤモンド型授業」

授業に「あだ名」をつけて，「良い授業」を生徒にもわからせる。
「つなげていけばいいんだな」と生徒に思わせる。
「デルタ型」→「星型」→「ダイヤモンド型」に進む過程で「これはすごい，新記録！」と生徒にも実感させる。

この学習会は「理論」「ビジョン」「実践」を合言葉に行っている。
学校に浸透させるためには，一本筋が通っていないとうまくいかない。

生徒指導（しつけ）とエンカウンターとの「つながり」をつけるところが最重要。
「両輪」じゃないと，浸透しない。
「エンカウンター」というと，いつもやわらかムードで進むと誤解している先生達もいる。
必ず「しつけ」の部分が必要。「しつけ」のトレーニングを兼ねている。
エンカウンターの要素が入ることで，ほのぼのした場面に出会い，生徒のファンになることもある。そこが，「両輪」でやることの魅力である。
しかしエンカウンターをやると必ず「のれない生徒」がでてくる。例えば，「敏感すぎる」「やらない」「声が大きい」「他のグループに目がいく」「攻撃的」など。
その部分を分析し，対処するのが「教師力」である。次回の学習会では，その部分を学習する。

２　実践ビデオ紹介

①「My name is ・・・」

４月の出会いの時期に行うエクササイズ

①自分の名刺をつくる(宿題にするのもよい)
②握手して自己紹介する
③ジャンケンする
④勝ったら名刺をもらう

実践ビデオを見て気づいたことは，実際にエクササイズをやらせる前の「先生の話」のうまさと重要さです。同じエクササイズをやっても，やる先生によって「差」がでる秘密は，この部分にあるのです。
また，生徒がエクササイズをはじめてからの，先生の生徒を「見る目」。つまり「観察力」と「分析力」。そして，教育的な意図のある「言葉かけ」も重要です。
最後に，全体でのシェアリングを通して，エクササイズをやったことの「大きな意義」を確認することも欠かせません。
つまりエンカウンターには，教師の「生徒分析力」「言葉力」「ビジョン力」などの「力量」が必須です。

導入部分：教師の説明

１　３種類の自己表現の説明（アサーショントレーニング）
×　ジャイアン・・・攻撃的な自己表現（いばりやさん）
×　のびた・・・・・非主張的な自己表現（おどおどさん）
○　しずか・・・・・アサーション（さわやかさん）

２　エクササイズのやり方の説明
※実際にみんなの前でやってみせる。（教師と代表生徒１名）
具体的な説明を入れていくので場の雰囲気もなごみ，わかりやすい。

３　エクササイズを始めたときにクラスで
「ひとりぼっちになりそうな人」「参加しない人」「つまらなそうにしている人」
は誰か，予想して名前をあげさせる。　（これこそ重枝流！！）

→生徒への意識づけ。「隠して表面的につきあっても何も変わらない」
→２名の生徒の名前があがる。
（おとなしくて自分からは友達に寄っていかない生徒と一年間不登校だった生徒）
→結局，おとなしい生徒が優勝。みんなに「拍手」される。（つまり積極的に参加した）
不登校傾向の生徒は，自分からは動かないが，まわりの生徒が意識して近づいていく。
（うれしそうな表情がたくさん見られる）
※生徒への意識づけはかなり有効！！

シェアリング

教師の言葉かけ
「このエクササイズは，相手がいないと成り立たない。お互いが寄っていった。相手に感謝。」
「**パワーのあるやさしさ**につながる。学年目標でもある。」→「大きな意義」に関連させる。

自己紹介でおもしろかったものを実際にやらせる。（何人か発表）
みんなで楽しみ，拍手。

②「新聞紙でチャレンジ」

グループ学習（班）の意義を体験的に理解

○新聞紙を切り，前後ろの班で新聞紙を交換し，ジグゾーパズルにする。

①８ピースに切る　「ルール：どんどんしゃべって完成させよう」
②１６ピースに切る　「ルール：一言もしゃべらずにやろう。黙って身振り手振りで」
③２４ピースに切る　「ルール：１人ずつにパーツを分けて，声をかけあってやろう」
→全員が参加しないと完成しない

実践ビデオを見ると，まず新聞紙を破るときに「気持ちいい，これ」と楽しそうです。
1回目が開始。班によっては，一部の人でやっていて，全員が参加していません。
教師側のビジョンとしては，3回やらせるので，最後は参加するだろうという余裕があります。
しかし，参加しない生徒が気になるときは「刺激」を与えます。例えば「チームワークはいいのか？」「役割分担ができている班があるな」など。
終わったら，順位を黒板に書き出します。
そして，シェアリングで「なぜ，うまくいった？」「なぜ，うまくいかなかった？」を考えさせます。ワークシートに班員の名前入りで，振り返りをさせます。
その時に，リーダーについても教えます。

アグレッシブリーダー：積極的な人（勢いはいいが，地道にコツコツは苦手だね）
※わざと長所・短所の両方を教える
ゲームメーカーリーダー：賢い発言（つやーなことは言うけど，自分はよごれんよね）

ムードメーカーリーダー：癒し系（目立たないけど，場をなごませるよね）

誰もが「リーダー」になれるということに気づかせる
↓
誰もが補い合えばいい。自分のよさがでればいい。支えがあればいい。

３　エクササイズの体験活動

「新聞紙でチャレンジ」を４～５人グループになって体験しました。

まず，８ピースに新聞を切りました。
生徒と同じように，新聞紙を破るのは楽しい作業です。
８ピースは思ったより簡単で，すぐに完成しました。
ただ，新聞紙を他の班から渡されると，先生が「始め」と合図をする前から，みんな取りかかっていました。それくらい気づくと「やりたい」気持ちになっていたということです！

次は１６ピースです。
まず，新聞紙を破る段階で「共同作業」の開始です。何となくお互いに譲り合って公平に新聞紙を破ります。１６ピースになっているかな？と途中で班員一緒に数えて確認しています。少し連帯感が生まれています。「黙ってやる」というのは，変化があっておもしろいなと思いましたが，これも淡々と完成。
ただ，他の班で「黙って！」と注意されていたので，アグレッシブリーダー的な人には，難かしい課題なのかもしれません。

最後は２４ピース。４人班では１人６ピース持つことになります。
重枝先生から「自分の分には責任を持って」と声がかかります。ちょっと緊張します。「すぐにどの部分か見つけられるかな？自分の持っている分がどこか解らなかったら嫌だなあ」
「今度はお互いに，話をしていいですよ」に，ちょっと安心感があります。特に，前回が「黙って」だったので，なおさらです。
「ここが，テレビ欄の部分ですよ」「端の方から並べましょう」など，お互いに話しながらやると，気づきもあります。安心感が大きくなります。完成したら，拍手をしていました。
最後にやったときが一番，安心感もあり，満足感がありました。やはり，黙ってやるよりも，話しながらやると，「一体感」が味わえるのだと実感がありました。また，最初に「自分の分」を渡されることで，所属感のようなものも感じました。
人間関係において「安心感」というのは，大きなものだと実感できました。

⇩

このエクササイズを「授業」におきかえて，生徒に説明する。
※どこの学校でも，「学力の二極化」が問題になっている。
底上げするために「班形態」（小グループ）を活用したい。また，「班形態」（小グループ）の「授業規律」を教え込む。

授業中に，自分だけでは解らずに「悩む」場面で，
まわりの邪魔にならないように「まわりのノートをのぞき込む」
タイミングをみて「ここ，どうなると？」と聞く
→「モデリング学習」（リレーションができる）

｜｜　同じ事

「新聞紙でチャレンジ」も，「自分の持っているピースだけでは足りない」
「向こうのと合うな」
※相手の邪魔にならないように「見る」「聞く」

「授業」と「新聞紙でチャレンジ」が一緒　→「関連づける」
「授業とエンカウンターの融合」
（本日の学習会のテーマ）

今回の学習会のキーワード
○　授業とエンカウンターの融合
○　しつけとエンカウンターは「両輪」
○「流れ星授業」「扇形授業」「デルタ型授業」「星形授業」「ダイヤモンド型授業」
○　アグレッシブリーダー　・ ゲームメーカーリーダー　・ ムードメーカーリーダー
○　パワーのあるやさしさ

♪学習会に参加された先生方の感想♪　（参加人数　２８名）

・ビデオで実際の場面が見られてよかった。これからも見たい。
「授業」と「エンカウンター」の融合ができたら，もっと他の職員の中にも受け入れてくれる人が出てくると思う。少しずつ輪を広げたい。

・教科指導で今まで「風土会」で学習してきたことを活かせないかと思っていたところだったので，とても良かったです。

・新たな発見がありました。「グループ学習の意義を体験させながら学ばせる。」体感，実感させることが体得する道だと思いました。

・本日初めて参加しました。とても勉強になりました。我がクラスも，まだあまりなじめていない生徒や何かと無気力な生徒がいます。ぜひ取り入れて，授業全体が「うまくいった」とか「失敗した」とか関係なしに，「しつけの場」であり「人間関係をつくる場」として活用していきたいと思います。次回もまたぜひ，参加したいと思います。

・私は今年度，小５の担任になりました。先生が次回予告で話された「のらない子」が何人かいます。ぜひ，次回お話が聞きたいです。今日の「新聞紙でチャレンジ」のエクササイズで振り返りの仕方が詳しくわかりました。風土会で教えていただいた「自己紹介ゲーム」を 4 月はじめに行いました。さっそく「新聞紙でチャレンジ」をしてみます。

・エンカウンターの深い意味(授業への結びつけ)を勉強することができ，大変ためになった。ここで習っていることを早く自分のクラスでしたくてたまらない。

・やはり，やってみるとよくわかりますね。リーダーはたくさんいるという発想など，来てみないとわかりません。３０年以上教師をしている私でも，今の生徒の状況は困難です。子ども達の不安感など，この風景を変えていくのはやはり「風土」からです。このまま学ばせていただきます。次回の「のれない生徒」がとても学びたいです。

・「新聞紙でチャレンジ」を体験できてよかったです。先生のビジョンがよく理解できましたし，参考になりました。授業とどう結びつけているかというところも見えてきました。わかりやすく説明していただいてありがとうございました。

・実際授業をされているビデオを見せていただいたので，細かいところの配慮や生徒の様子や手だてなどがわかり，よくイメージできました。また，エンカウンターで必ずしも和やかな雰囲気をつくるプレッシャーをもつ必要はなく，その中で「しつけ」も行えるということが一番印象に残りました。「のらない生徒への手だて」など，ぜひお聞きしたいです。今年度から校内研修で「好ましい人間関係をつくるコミュニケーション，集団づくり」を行うことになり，ぜひこのような活動も取り入れていきたいと思っています。

・身近な材料で教材として使えるエクササイズだったので，いつでもできそうで助かります。ひとつルールを付け加えることで，大きく内容が変わるなと実感しました。相手の名前を入れてシェアリングするのは，とても参考になりました。